

平成30年6月28日

平成30年度 行政サービス評価委員会 議事要旨 (報告)

(企画政策課)

■日時：平成30年6月28日(木) 14:00～15:30

■場所：藤枝市民会館 2階会議室2・3

1 評価のテーマ

- ・平成29年度に実施した、地方創生拠点整備交付金の2つのプロジェクト、地方創生推進交付金の3つのプロジェクト、全20事業
- ・第5次総合計画、ふじえだ健康都市創生総合戦略における成果指標、KPIの進捗状況

2 総合評価

- ・地方創生拠点整備交付金事業及び地方創生推進交付金事業について、その取組の目的や方向性、内容も妥当であり、またKPIも概ね達成していることから、高く評価できるものである。
- ・地方創生拠点整備交付金の2つのプロジェクトは、施設整備の視点も適正であり、利用者による施設自体の評価も高い。整備を行ったばかりであるので、目的の達成に向けた今後の取組を期待する。
- ・地方創生推進交付金の3つのプロジェクトは、一昨年からのプロジェクト、新規プロジェクトとも、藤枝市の地方創生に向けて必要な取組である。KPIについても、一部、計画当初から時勢が変わっていることから修正の必要が見込まれるものがあるものの、概ね目標を達成している。順調な事業執行と成果発現がなされており、評価できるものである。

3 意見の概要

- ・市民への情報発信がHPなどで迅速かつ丁寧に行われている。
- ・ICTは、課題解決の手段であり、データ分析の上、どう課題解決につなげていくのかが重要である。
- ・プログラミング教育は、論理思考を学ぶ、自ら学ぶ姿勢を身に付ける目的の手段として活用して欲しい。
- ・大久保キャンプ場・グラススキー場を中心とした拠点強化は、中山間地域の活性化策として評価できる。
- ・計画通り産学官連携推進センターがオープンし、ICTコンソーシアムの活動がスタートしたことで、地域活性化が期待できる。
- ・太陽光発電など再生エネルギーの普及に力を入れて欲しい。
- ・緊急輸送路に甚大な被害を及ぼす可能性のある跨道橋の耐震化など災害対策により一層力を入れて欲しい。
- ・施策を行う上でデータ分析が重要である。特に、新商品の開発は、データ分析の上、将来の需要予測を見据えて行って欲しい。
- ・事業評価を行う上で、KPIの目標が達成されたから成功ということではなくて、因果関係が本当にあるのかを含めて、きちんと分析し、次の施策に活かして欲しい。
- ・藤枝市は、4Kを中心に様々な施策に積極的に取り組んでいるので、引き続き頑張ってもらいたい。

4 質疑・意見

○事業全体について

(加茂川委員) 各事業が良好である。

資料1・2の関連性や取り組み状況が分かりやすく、かつ各事業が目標に対して成果が得られており高く評価できる。

地方創生事業に関する取り組みやイベント等を市のホームページや各種団体とのリンクにより、見える化が図られており、市民への情報発信が迅速かつ丁寧に行われている。

(担当課) 市として、HPだけでなく広報誌、メディアへの露出も努力している。今後も市民の皆様に、市の施策について理解を得られるように情報を発信していく。

○広域ネットワークによる商品ブランド化プロジェクトについて

(萩原委員) 友好都市・恵庭市との産業連携は、特産品を生かしたものの、農商工連携による新商品開発や、ブランド化販売拡大への取組みは、大変な努力がいるものだと思う。

交付金事業としては終了となるが、今後の事業展開はどうなるのか。また、平成30年度最終目標値が高くなっているが、これまでの成果から見込んでの目標値なのか。

(担当課) 交付金事業としては、終了となるが、両市の産業祭等、また、東京圏の大学等と連携しながら今後も広域連携における産業交流事業は継続していく。

目標値に関しては、当初の事業計画で考えられた数値となり、これまでの成果を見込んだものではない。

今後、両市の連携及び産業交流が進み、更には、商品開発や販路開拓を推進し、目標値を達成できるよう取り組んでいく。

(萩原委員) 商品開発したものはどのようなものがあるのか。

(担当課) 恵庭市のトマトに市内企業の乾燥技術を使用した乾燥トマトなどがある。

(大橋委員長) 乾燥トマトなどの商品開発は、将来的な需要予測を見込んで行っているのか。

(担当課) 両市の生産物と技術の組合せを考える中でマッチングされたものであり、現在、販路を開拓しているところ。

(大橋委員長) 販路開拓も大切だが、将来の需要予測を見据えての基礎分析を行わなければ、将来の売上増は難しい。

○ICTで人の流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクトについて

(石川委員) IoTを活用した「小1児童登下校お知らせサービス」の今後の青島小以外の展開について、さらに広げていくのか、また対象をどの範囲までとするのか教えて欲しい。

(担当課) 平成29年10月に青島小の1年生で先行的にスタートし、平成30年1月に市内全校の小学1年生に拡大、平成30年4月から新たに、新1年生の希望者約500人が実施している。

実証事業であること、また、低速通信にはLPWAにも様々な規格が開発されていることなどから、本年度の事業評価後に学校側と連携しながら今後の方針を決めていく。

- (渡辺委員) 日本の産業の中でも成長著しいのがICT産業であり、これからの社会の様々な分野で活用されるICT技術を学ぶことは、次世代を担う若者にとって不可欠なことであり藤枝市のICT、IoTの先進市としての取組は、大いに評価されるものである。新しいことに挑戦をしていく行政の姿勢は地方創生推進の原動力になっていくと思う。
- (担当課) 本市では次世代を担う人材を育成するために、ペッパーを市内全小中学校に配置し、次期学習指導要領に先駆けて小・中学校におけるプログラミング学習を実施し、これらを担う人材づくりを展開している。
- (渡辺委員) IoT活用のためのLPWAネットワークの整備は大きなチャレンジである。今後の事業展開として具体的にどのようなことが考えられるのか。
- (担当課) 河川の水位観測は、実装化した事例であるが、課題解決に向けて、小1児童登下校お知らせサービスを含む様々な実証実験を行い、実装に向けて模索をしている。
今後、徘徊者の見守りなど介護分野での事業展開を考えている。
- (大橋委員長) お知らせサービス、河川の水位観測、介護など様々な分野で、ICT、IoTを活用に取り組んでいるが、市としてどの分野に重点を置くのか。
- (担当課) 特に安心安全面に重点を置く。
- (河野副市長) 具体的に光る横断歩道による注意喚起システムや電気メーターを使用した高齢者の見守りなどへの活用を検討しているところだが、本市が力を入れている4K施策（環境、健康、教育、危機管理）にICT、IoTを活用するなど、市民にわかりやすく導入してよかったと思える施策を検討している。
- (大橋委員長) ICTについては、情報処理ができることが当たり前となってきた中で、データ分析して、どう課題解決に活かしていくかが重要である。ただ、ロボットのプログラミングだけを教えるというのではなく、どう活用して、どう課題解決に活かしていくかが大切である。
- (落合委員) 横文字を使用せずに、藤枝市の考えるICTとは何か教えて欲しい。
- (担当課) 情報技術を活用して生活の質の向上、市民サービスの向上、事

務の効率化につながるための手段であると考えている。

- (落合委員) ICT人材の育成として、プログラミングスキルだけでなく、ネットリテラシーの教育を含めることで判断能力を養い、今後のICTの流れに対応できる人材の育成をお願いしたい。
- (河野副市長) ペッパーへのプログラミングを通して、子どもにICTに対して興味を持たせる、刺激を与えることができていると思っている。次の展開として、大橋委員長や落合委員の意見を踏まえて、どう教育に活かしていくのか検討していきたい。
- (大橋委員長) まず興味を持たせるということは大切である。教育分野でのプログラミングは、論理思考を学ぶ、自ら学ぶ姿勢を身に付けるという目的のための手段として活用して欲しい。
- (渡辺委員) 先日、市内で子どもの見守りをを行っている老人の死亡事故が発生したが、見守りボランティアの人員不足により、交代が難しい状況であると聞いている。ICT分野だけでなく、こういった課題となっているソフト面での対応もお願いしたい。

○藤枝市中山間地域観光拠点機能強化事業について

- (加茂川委員) 大久保キャンプ場・グラススキー場を中心とした拠点強化は、成果が得られていると思う。インターネットサイトのレビューでもコテージの改装等が話題となっており評価が高くなっている。次の戦略として、平成30年度以降に推進・強化を考えている内容について教えて欲しい。
- (担当課) 当事業による機能強化が着実な集客につながっていると考えている。平成30年度以降は、本年3月に策定した中山間エリアマネジメント計画を推進し、施設間、施設と地域の連携強化策を具体的に進め、更なる地域価値の向上に取り組んでいく。また、地域で作ったものを地域外で販売する機会を設けることで稼ぐ力を高めていく。回遊型のイベントを企画し、楽しい中山間地域としていきたい。
- (松永委員) 中山間地域の活性化として、観光の視点から取り組むことは評価できるが、一方で中山間地域の基幹的な産業である農林業の振興が重要であるため、農林業と活性化施設との連携をお願いしたい。
- (担当課) 中山間地域では、農産物直売所や観光農園、朝市等により回遊

性の向上に取り組んでいる。特に、集客シーズンである夏休み期間には、地元産の抹茶やイチジク、ブルーベリー等を使った「かき氷」と「せとやコロッケ」を提供する施設を紹介するMAPを作成するなど、地域の魅力と特産品を発信する取組を展開している。なお、本事業で整備したカフェ内にある販売コーナーでは、藤枝産のシイタケやきくらげなど、地元農産物を販売している。今後も地域とつながる拠点施設として、地元農産物や陶芸を活用するなど、地域産業との連携により農業者を支援していく。

○産学官での人の流れをつくる情報ビジネス創造拠点整備事業について

○大学を核に、情報ビジネスでの流れをつくる藤枝“活動・交流都市”創造計画について

(加茂川委員) 計画通り産学官連携推進センターがオープンし、ICTコンソーシアムの活動がスタートした。ICTコンソーシアムや他団体、学生とのコラボレーションによる様々な活動は地域活性化が期待できる。

創出事業件数は、低調なところが少し気になるものの、目的や目標達成に向け確実に推進されており評価できる。

(担当課) 昨年10月に産学官連携推進センターがオープンしたが、このハードを活かすために、ソフト事業を展開していく産学官連携推進協議会を年末に立ち上げた。実施期間が短かったこともあり、創出事業件数の目標値が達成できなかったが、今後は、市内企業と学生のマッチング、公開事業、地元定着を促す場の創出など様々な事業に取り組んでいく。

(松永委員) 産学官連携は、ビジネス中心のイメージがあるが、「人を育てる、活かす」という点でもつながって欲しい。

(担当課) 産学官連携推進センターは、「人づくりの拠点」と考えているので、各大学と連携しながらソフト面の充実に取り組んでいきたい。

○第5次総合計画後期計画成果指標について

(松永委員) 参考資料1のNo90(太陽光発電施設最大出力)、Np91(公共施設への再生エネルギー設備の設置箇所数)の達成度を引き上げて欲しい。

(担当課) 個人住宅に設置する太陽光発電設備への補助について、昨年、県の補助は終了したが、当市では引き続き補助を行うことで、再生可能エネルギーの自家消費を促進している。また、FIT（固定価格買取制度）の買取価格が年々下がっている中で、当市では蓄電池の補助を行うことで、電気の地産地消を進めている。

(加茂川委員) 電気については、説明のとおり地産地消の流れが進んでいるところである。
蓄電池が高額となっているが、開発が進んでいるところであるので、これからの動向についてアンテナを高く情報を収集して欲しい。

○ふじえだ健康都市創生総合戦略KPIについて

(松永委員) 参考資料2のNo33「認定農業者の年間農業所得目標」の達成率の数値が31.7%と低い。若手の農業従事者数が少ない要因の1つは、安定した収入が難しいことだと思うので、農業従事者の安定した収入を確保するために、中山間地域の活性化をうまく活用して欲しい。

(担当課) 活性化施設、イベント開催時の地場産品の販売は大切だが、それだけで安定した収入を得るのは難しい状況である。より一層のPRを行うとともに、加工による付加価値の創造などを支援していく。

(大橋委員長) 先日、アメーラトマトの工場を見学したが、科学工場のようなであった。まさにブランド化、情報の付加など付加価値の創造にうまくいった農業の事例である。農家として親がやってきたことを引き続き、そのまま行うということでは承継は難しい。スマートアグリ等を通じて農業も変化しているということを若者に実感してもらうことが農業従事者の増加につながると思っている。

(松永委員) 参考資料2のNo20(緊急輸送路に甚大な被害を及ぼす可能性のある跨道橋の耐震化率)が66.7%と低い。災害対策として非常に重要だと思うので100%を目指して欲しい。

(担当課) 平成27度から平成31度の5箇年で年1橋ずつ、5橋を耐震化

する計画である。3年目の目標が3橋のところ、現状は2橋が実施できている。今年度（南駿河台地内の緊急輸送路上の跨道橋）2橋の耐震補強工事を実施予定のため、年度内には5橋中4橋の耐震化が完了し、平成30度に目標としている80%を達成できる見込みとなっている。

ご意見のとおり、橋梁の耐震対策または老朽化対策については全国的に喫緊の課題である一方、大きな事業費を要する事業となる。全国的な課題でもあることから、今後も積極的に国に働きかけ、財政的な支援を引き出すとともに、点検結果による橋梁長寿命化計画の更新やコスト縮減などを行い、少しでも早い100%を目指して着実に取組を進めていく。

5 委員長講評

施策を行う上でデータ分析が重要である。

KPIと事業の関係は、相関関係と因果関係があるが、KPIが達成されたから成功ということではなくて、因果関係が本当にあるのかを含めて、きちんと分析し、次の施策に活かして欲しい。

藤枝市は、4Kを中心に様々な施策に積極的に取り組んでいるので、引き続き頑張ってもらって欲しい。